

## 【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年8月5日

【四半期会計期間】 第85期第1四半期(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

【会社名】 神鋼鋼線工業株式会社

【英訳名】 Shinko Wire Company,Ltd.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 藤井晃二

【本店の所在の場所】 兵庫県尼崎市中浜町10番地1

【電話番号】 06-6411-1051(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役総務本部長兼同総務部長兼企画部長 吉田裕彦

【最寄りの連絡場所】 兵庫県尼崎市中浜町10番地1

【電話番号】 06-6411-1051(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役総務本部長兼同総務部長兼企画部長 吉田裕彦

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第84期 第1四半期 連結累計期間	第85期 第1四半期 連結累計期間	第84期
会計期間	自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日	自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日	自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日
売上高 (百万円)	7,097	6,706	29,151
経常利益 (百万円)	329	90	1,135
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	192	51	527
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	230	9	524
純資産額 (百万円)	19,330	19,313	19,519
総資産額 (百万円)	43,427	41,239	42,577
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	3.69	0.98	10.12
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	36.6	38.2	37.4

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。  
 2 売上高には、消費税等は含まれてありません。  
 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式がないため、記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、金融緩和・財政政策等から、企業収益や雇用環境は緩やかな回復基調が続いているが、円高等による国内経済環境の悪化や中国の景気減速をはじめとする海外経済の下振れのリスク等により、先行き不透明な状況で推移しました。

当社グループを取り巻く事業環境は、民間投資関連需要では一部で比較的堅調に推移したものの人手不足等による工事遅れの影響、また公共投資関連需要では高速道路建設工事事故に伴う一斉安全点検の影響等もあり、厳しい状況で推移しました。

このような状況に対して、当社グループでは、高付加価値製品の販売拡大による収益力の向上を図ってまいりました。また、販売価格の是正に努めるとともに収益改善活動等を引き続き推進し、競争力強化を図ってまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は6,706百万円と前年同期に比べ5.5%の減少となり、営業利益は140百万円（前年同期比227百万円減少）、経常利益は90百万円（前年同期比239百万円減少）、親会社株主に帰属する四半期純利益は51百万円（前年同期比141百万円減少）となりました。

当第1四半期連結累計期間のセグメント毎の状況は次のとおりです。

#### <特殊鋼線関連事業>

(P C関連製品) 公共事業関連では、高速道路建設工事事故に伴う一斉安全点検の影響を受けて鋼材納入が一時ストップし、前年同期に比べ販売数量・売上高とも減少となりました。民間投資関連では、マンション向け販売数量が工事着工遅れにより減少となりましたが、倉庫などの大型物件の販売数量増加により、販売数量、売上高は前年同期に比べ増加となりました。全体では、販売数量は前年同期に比べ微増となりましたが、売上高は公共事業関連の減少分を補いきれず微減となりました。

(ばね・特殊線関連製品) 自動車産業向けの弁ばね用鋼線（オイルテンパー線）は、東南アジア向けが低調であったものの、北米向けや中国向けが堅調に推移したことから、前年同期に比べ販売数量・売上高ともに増加しました。ばね用ニッケルめっき鋼線は、主要な需要分野であるプリンター生産が低調である中、東南アジア向けの新規拡販により、前年同期並みの販売数量・売上高となりました。ステンレス鋼線は、主要分野である住宅関連需要が低調である中、自動車分野での販売拡大に努めましたが、前年同期に比べ販売数量は増加したものの、売上高は減少となりました。

その結果、特殊鋼線関連事業全体の売上高は3,410百万円と前年同期に比べ0.9%減少となり、セグメント利益は170百万円と前年同期に比べ20百万円の減少となりました。

#### <鋼索関連事業>

ワイヤロープの国内需要は依然として人手不足による土建分野の停滞継続に加え、海外市況悪化に伴う建機・船舶分野の減速により市場は縮小し、国内向けの販売は前年同期に比べ販売数量・売上高とも減少しました。輸出については港湾向け・エレベータ向けなどで安定した受注を確保し、前年同期に比べ販売数量・売上高とも微増となりました。

その結果、鋼索関連事業全体の売上高は3,046百万円と前年同期に比べ9.3%減少となり、セグメント利益は1百万円と前年同期に比べ205百万円の減少となりました。

<エンジニアリング関連事業>

建築向けケーブル、落橋防止ケーブル、高速道路の二重安全対策や道路騒音防止関連製品の売上高は前年同期並みとなりましたが、橋梁向け吊構造用ケーブルの売上高は前年同期に比べ減少となりました。

その結果、エンジニアリング関連事業全体の売上高は233百万円と前年同期に比べ45百万円減少となり、セグメント損益は43百万円の損失（前年同期は42百万円の損失）となりました。

<その他>

不動産関連事業の売上高、セグメント利益はそれぞれ15百万円、12百万円と前年同期並みとなりました。

(2) 財政状態の分析

( 流動資産 )

当第1四半期連結会計期間末における流動資産の残高は、22,633百万円（前連結会計年度末は、23,759百万円）となり、1,125百万円減少となりました。主に受取手形及び売掛金の1,056百万円の減少によるものです。

( 固定資産 )

当第1四半期連結会計期間末における固定資産の残高は、18,605百万円（前連結会計年度末は、18,817百万円）となり、212百万円減少となりました。主に投資有価証券の129百万円の減少、機械装置及び運搬具(純額)の103百万円の減少によるものです。

( 流動負債 )

当第1四半期連結会計期間末における流動負債の残高は、11,629百万円（前連結会計年度末は、11,819百万円）となり、190百万円減少となりました。主に賞与引当金の344百万円の減少、未払法人税等の303百万円の減少、短期借入金の558百万円の増加によるものです。

( 固定負債 )

当第1四半期連結会計期間末における固定負債の残高は、10,295百万円（前連結会計年度末は、11,238百万円）となり、942百万円減少となりました。主に長期借入金の943百万円の減少によるものです。

( 純資産 )

当第1四半期連結会計期間末における純資産の残高は、19,313百万円（前連結会計年度末は、19,519百万円）となり、205百万円減少となりました。主に利益剰余金の104百万円の減少、その他有価証券評価差額金の62百万円の減少によるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は62百万円であります。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	88,000,000
計	88,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成28年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成28年8月5日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	58,698,864	58,698,864	東京証券取引所 (市場第二部)	株主として権利内容に制限 のない、標準となる株式 単元株式数は1,000株
計	58,698,864	58,698,864	-	-

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減額 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成28年6月30日		58,698,864		8,062		2,015

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成28年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 6,659,000	-	株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式 単元株式数は1,000株
完全議決権株式(その他)	普通株式 51,787,000	51,787	同上
単元未満株式	普通株式 252,864	-	1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	58,698,864	-	-
総株主の議決権	-	51,787	-

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式321株が含まれております。

【自己株式等】

平成28年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 神鋼鋼線工業(株)	兵庫県尼崎市中浜町10番地1	6,659,000	-	6,659,000	11.34
計	-	6,659,000	-	6,659,000	11.34

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	5,732	5,414
受取手形及び売掛金	6,092	5,036
電子記録債権	2,978	3,173
商品及び製品	3,727	3,787
仕掛品	2,680	2,783
原材料及び貯蔵品	1,622	1,636
繰延税金資産	355	301
その他	626	555
貸倒引当金	57	55
<b>流動資産合計</b>	<b>23,759</b>	<b>22,633</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物（純額）	3,729	3,696
機械装置及び運搬具（純額）	4,891	4,787
工具、器具及び備品（純額）	189	181
土地	5,774	5,774
リース資産（純額）	48	42
建設仮勘定	39	44
<b>有形固定資産合計</b>	<b>14,673</b>	<b>14,527</b>
<b>無形固定資産</b>		
	284	292
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	1,419	1,289
繰延税金資産	1,487	1,483
その他	995	1,055
貸倒引当金	41	41
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>3,859</b>	<b>3,786</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>18,817</b>	<b>18,605</b>
<b>資産合計</b>	<b>42,577</b>	<b>41,239</b>

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	2,551	2,530
短期借入金	6,411	6,969
リース債務	28	27
未払費用	1,141	1,139
未払法人税等	341	38
賞与引当金	605	261
その他	739	663
<b>流動負債合計</b>	<b>11,819</b>	<b>11,629</b>
<b>固定負債</b>		
長期借入金	6,781	5,838
リース債務	29	23
役員退職慰労引当金	59	23
環境対策引当金	14	14
退職給付に係る負債	3,793	3,868
繰延税金負債	301	269
その他	258	258
<b>固定負債合計</b>	<b>11,238</b>	<b>10,295</b>
<b>負債合計</b>	<b>23,057</b>	<b>21,925</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	8,062	8,062
資本剰余金	6,354	6,354
利益剰余金	2,984	2,879
自己株式	1,360	1,360
<b>株主資本合計</b>	<b>16,041</b>	<b>15,936</b>
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	105	42
為替換算調整勘定	143	118
退職給付に係る調整累計額	356	326
<b>その他の包括利益累計額合計</b>	<b>108</b>	<b>165</b>
<b>非支配株主持分</b>	<b>3,585</b>	<b>3,543</b>
<b>純資産合計</b>	<b>19,519</b>	<b>19,313</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>42,577</b>	<b>41,239</b>

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)
売上高	7,097	6,706
売上原価	5,562	5,345
売上総利益	1,534	1,360
販売費及び一般管理費	1,166	1,220
営業利益	368	140
営業外収益		
受取利息	10	10
受取配当金	17	21
固定資産賃貸料	11	11
貸倒引当金戻入額	0	0
その他	7	4
営業外収益合計	47	47
営業外費用		
支払利息	34	26
持分法による投資損失	18	17
その他	33	53
営業外費用合計	86	97
経常利益	329	90
税金等調整前四半期純利益	329	90
法人税、住民税及び事業税	22	1
法人税等調整額	95	37
法人税等合計	118	38
四半期純利益	211	51
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失( )	19	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	192	51

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)
四半期純利益	211	51
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7	65
為替換算調整勘定	0	2
退職給付に係る調整額	15	29
持分法適用会社に対する持分相当額	4	23
その他の包括利益合計	19	61
四半期包括利益	230	9
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	209	6
非支配株主に係る四半期包括利益	21	3

【注記事項】

(追加情報)

当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)
「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対して、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
神鋼新 <sup>7.8</sup> 弾簧鋼線(佛山)有限公司	222百万円	200百万円

(注)上記の債務保証は、(株)神戸製鋼所による債務保証を当社が再保証したものであります。

(四半期連結損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)
減価償却費	252百万円	273百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月24日 定時株主総会	普通株式	156	3	平成27年3月31日	平成27年6月25日	利益剰余金

2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月22日 定時株主総会	普通株式	156	3	平成28年3月31日	平成28年6月23日	利益剰余金

2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	特殊鋼線 関連事業	鋼索関連 事業	エンジニアリング 関連事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	3,442	3,360	278	7,081	15	7,097	-	7,097
セグメント間の内部売上高 又は振替高	286	95	6	387	-	387	387	-
計	3,729	3,455	285	7,469	15	7,485	387	7,097
セグメント損益	191	206	42	356	12	368	-	368

(注1)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産関連事業であります。

(注2)セグメント損益は、四半期連結損益計算書の営業利益であります。

当第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	特殊鋼線 関連事業	鋼索関連 事業	エンジニアリング 関連事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	3,410	3,046	233	6,690	15	6,706	-	6,706
セグメント間の内部売上高 又は振替高	218	91	1	312	-	312	312	-
計	3,629	3,138	235	7,003	15	7,018	312	6,706
セグメント損益	170	1	43	128	12	140	-	140

(注1)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産関連事業であります。

(注2)セグメント損益は、四半期連結損益計算書の営業利益であります。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)
1 株当たり四半期純利益金額	3円69銭	0円98銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	192	51
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益 金額(百万円)	192	51
普通株式の期中平均株式数(千株)	52,049	52,039

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年8月5日

神鋼鋼線工業株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 松井 隆雄

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 柴原 啓司

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている神鋼鋼線工業株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成28年4月1日から平成28年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、神鋼鋼線工業株式会社及び連結子会社の平成28年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

---

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。